

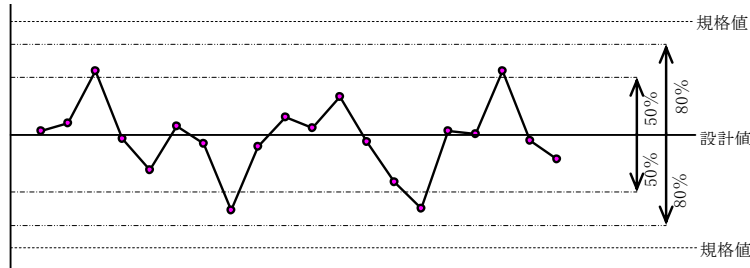
別紙－４

・出来形及び品質のばらつきの考え方

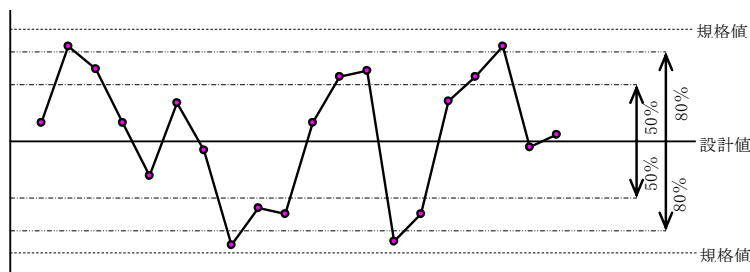
〔管理図の場合〕

【上・下限値がある場合】

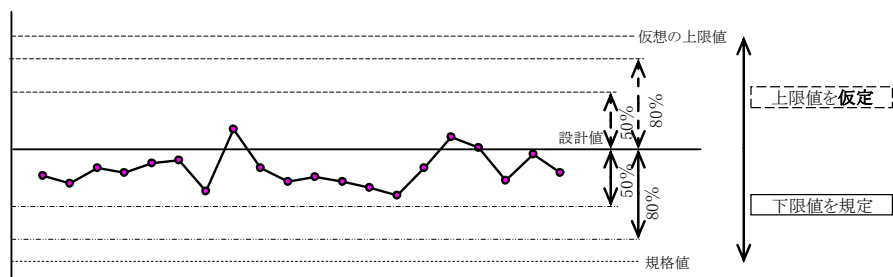
①ばらつきが概ね50%以下と判断出来る例



②ばらつきが概ね80%以下と判断出来る例



【下限値のみの場合】

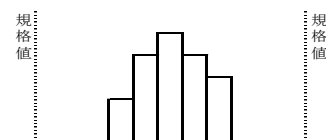


※上限値のない場合のばらつきの考え方は、基本的に下限値と同様な値があるものと仮定し、ばらつきの%を考慮する。

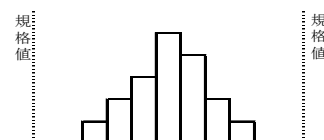
なお、土工事など、上限値を仮定することが適当でない工種については、下限値のみとする。

〔度数表またはヒストグラムの場合〕

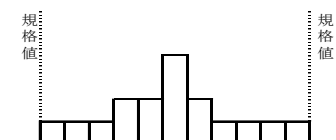
ばらつきが小さい



ばらついている



ばらつきが大きい



※概ねとは、打点数の80%以上とする。

※品質のばらつき判断が可能な工種（主なもの）

- ①コンクリートの圧縮強度（現場養生）
- ②路体、路床、下層路盤、上層路盤、舗装等の現場密度等
- ③アンカー工等の適性試験、確認試験等
- ④現場吹付法枠工等のコンクリート圧縮強度等